

新潟県立植物園
友の会
平成26年度
会員募集

楽しい! お得!

植物や自然が大好きな方の集まりです。

植物園だよりなど印刷物の送付、観賞温室入館無料、植物観察旅行など、特典がいっぱい!

- 年会費 ●個人会員 2,000円 ●賛助会員(一口) 10,000円
●ファミリー会員 3,000円 ●団体会員 5,000円

※4月より翌年3月まで。年度途中入会での割引はございません。

平成26年度の会員を募集します。詳細は
友の会事務局(TEL.0250-24-6465)
までお問い合わせください。

観賞温室第2室 企画展示

- 7月13日(日)まで
「アジサイ展」同時開催:絶滅危惧植物展
- 7月16日(水)~9月7日(日)
「食虫植物と技あり植物展」
- 9月10日(水)~11月16日(日)
「ハーブ展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 7月1日(火)~7月13日(日)
「里山と人里展」
出展:小国生物友の会
- 7月16日(水)~8月3日(日)
「植物色図鑑の活動紹介と植物染め、染料の盆栽展」
出展:植物色図鑑
- 8月5日(火)~8月24日(日)
「お山の森の木の学校」作品展
出展:NPO法人お山の森の木の学校
- 8月26日(火)~9月7日(日)
「博物館実習生展示」
- 9月10日(水)~9月28日(日)
「折紙」
出展:はまなす(折り紙の会)

観賞温室第3室 特別展示

- 7月23日(水)~8月31日(日)
「熱帯果樹・タネ展」

●観賞温室利用案内

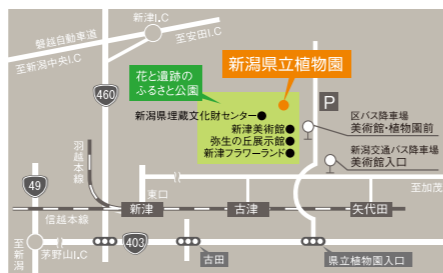
開館/9:30~16:30(入館締切16:00)
入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)
小中学生100円 ※土日祝日は小中学生の入館料無料

●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

7							8							9						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5	・	・	・	・	・	1	2	・	1	2	3	4	5	6
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
27	28	29	30	31	・	・	24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	・	・	・	・

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
J.R./信越線古津駅から徒歩約25分
バス/区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新津駅東口から「矢代田經由白根・湯東営業所」行き
「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ



新潟県立植物園

植物園だより



レンゲショウマ

Anemonopsis macrophylla
(キンポウゲ科)

和名は漢字で蓮華升麻と書き、花がハスの花のようで葉はショウマの類によく似ているのでこの名がついた。1属1種のたいへん珍しい日本特産植物である。

深山の薄暗い林床に生える草本で地下茎が発達して大きな株を作る多年草である。

茎は直立して高さ40~70cm、無毛で上部で分枝して花をまばらに付ける。花は6月~9月頃、茎頂及び枝先にまばらな円錐花序となり、美しい淡紫色の花が長柄によって下向きにぶら下がって咲く。

薄暗い林の中にしっとりと咲いているさまは、美しいというよりも愁いを含んだ貴婦人を思わせる。

解説: 富樫信平(抜粋)



企画展示

食虫植物と 技あり植物展

平成26年7/16(水)～9/7(日)

夏休み期間中、子供たちに大人気の食虫植物展を今年も開催します。

名前はみんなが知っているハエトリグサ、ウツボカズラ、サラセニア、モウセンゴケなどの本物の食虫植物が観察できる絶好の機会です。

また植物は乾燥地、湿地、水辺、海浜や高山など多様な環境で生きるために、さまざまな仕組みを持っています。植物が生きていく上で不可欠な「技」に注目して、植物の置かれている環境と進化についてわかりやすく解説を行います。

夏休みの宿題に役に立つ植物観察や自由研究につながるような植物クイズ、ワークシートコーナーも予定しています。是非、夏休みは食虫植物展にお越しください。



ネバネバで虫を捕えて、とかしているモウセンゴケ

サラセニア



オジキソウにもさわられる

夏の夜間開園

8月14日(木)～16日(土)の3日間は20時30分まで温室の開館時間を延長します。夜の植物園はいつもと違う雰囲気、温室の中も薄暗く幻想的な世界が広がります。熱帯ドーム温室では、夜に咲く花が見られ、ガヤコウモリを引き寄せる甘い香りが漂います。夜の神秘的で不思議な世界を感じてください。屋外では子ども縁日も開催します。皆様のお越しをお待ちしております。

秋の企画展示「ハーブ展」

～つかう植物、香る植物～

平成26年9/10(水)～11/16(日)

今年度の秋の展示のテーマはハーブです。衣・食・住など、私たち人間の生活の中にさまざまなかたちで取り入れられている植物を紹介します。

メイン会場はハーブやバラを中心とした庭園で、香りを楽しむことのできる空間を創出します。



展示イメージ

園内
ウォッチング

園地●夏の見どころ

木々の緑が濃くなり本格的な夏に向かう7月、セイヨウニンジンボクはさわやかな青紫色の花を咲かせます。葉は掌状複葉で裏面が白っぽく、こちらも見た目がたいへん涼やかです。秋の七草のひとつであるキキョウもこの時期に咲きます。

8月の暑さの中、水辺で咲くのはミソハギです。同じくこの時期に咲き続ける花木、サルズベリも同じミソハギ科に属します。

9月になると、実りのはじまりです。ラクウショウは球果をつけ、ガマズミのなかまも色づきます。アオギリの変った種子は完熟して風に運ばれるのを待つばかりとなります。

園内を一周すると約1km。植物を観察しながらの散策は楽しみがいっぱいです。(林 寛子)



ガマズミ風のおトコヨウソメ

ラクウショウ

サルズベリの花

ミソハギ



セイヨウニンジンボク

キキョウ '紫雲'



アオギリ



温室●パイナップルの真実

皆さんにも馴染みのあるパイナップルですが、意外と知られていないことが多い植物です。

パイナップルは高さ1mほど伸びた茎の先に約150個の小さな紫色の花を球状に咲かせます。その花の基部が肥大して、くっつきあってできたものが、普段「パイナップル」として食べている部分です。つまり、表面のうろこのように見える皮の部分の1つ1つが小さい花を咲かせた部分で、「本当の果実」なのです。

市販のパイナップルを利用して、ご家庭でも育てることができることをご存知ですか？パイナップルの上に出ている葉の部分を取り取って下の葉を2、3枚剥ぎ、土の中に埋めると根が出ます。熱帯の植物なので、暖かい環境で気をつけて育てていくと約3年で果実がなります。南国気分を味わえる観葉植物として、お部屋のアクセントにもなります。(桐生綾香)



H17年8月になったパイナップルの実



H26年6月現在の様子

植物園ニュース

当園ボランティアの会が 新潟県緑化功労者として表彰されました

平成26年4月27日(日)、すがすがしい風の吹く晴天のもと、新潟県スポーツ公園で第27回新潟県都市緑花フェア(にいがたカナル彩)が開催されました。

11時よりカナルの水面に浮かぶ棧橋ステージにおいて泉田知事のあいさつの後、新潟県緑花功労者表彰式がとりおこなわれ、新潟県立植物園ボランティアの会、見附市のナチュラルガーデンクラブの2団体が表彰を受けました。

新潟県立植物園ボランティアの会は、平成17年5月から8年間にわたり年間200日に及ぶ展示解説、標本整理、植物の開花調査、植物管理の活動により、園内の美化、収集植物や資料の整理、知識の普及に寄与されました。

表彰式には、当園で展示解説に活躍されている石黒進さんより会を代表して出席していただきました。活動内容が紹介されたあと、土木部都市局長より賞状と副賞が授与されました。

副賞でいただいた時計は情報センター2階のボランティア控室に掛かっています。(田中良明)



春に出かけた植物イベント



全国さくらサミットでの基調講演



全国キリシマツツジサミットでの基調講演



サミット後は宮本実行委員長のお宅で霧島市市長一行と「のりキリシマツツジ」を拝見



新潟県花き振興協議会の設立総会での豊島会長の挨拶



能登を代表する珠洲市の池上家の「本霧島」(石川県指定天然記念物)

今年の春は花のイベントが盛りだくさんでした。

皮切りが、五泉市で4月18日に開催された「第22回全国さくらサミット in 五泉」。これは、全国の桜で街づくりを推進する自治体が集まり、課題を話し合い、連携を促進するための会議で、「新潟の桜」と題した基調講演を行いました。新潟の野生のサクラ、国指定天然記念物の阿賀野市の「梅護寺数珠掛桜」や佐渡の「御所桜」、正式な品種名に議論のあった五泉市の「徳咲彼岸八重桜」についての話をしました。

5月4日には、能登空港で開催された「第1回全国キリシマツツジサミット in 能登」に参加してきました。ここでは「人をつなぐ能登の花」と題して、江戸時代から続くキリシマツツジの栽培の歴史や、日本最大の集積地である能登に残る江戸キリシマの品種や分布、古文書から見る由来、キリシマツツジを核とした地域振興などについての基調講演を行い、パネルディスカッション「キリシマツツジの保護・育成とそれを活かした地域づくり」のコーディネーターをつとめました。

5月10日には、新潟日報メディアシップで、新潟県花き振興協議会の設立総会が行われ、記念イベントのパネルディスカッション「花き産業の将来と新潟の役割」のコーディネーターをつとめました。本会は、花きの生産や供給体制の強化、輸出及び需要の拡大とともに、花と緑のすばらしさの普及啓発を図り、本県花き産業の発展と潤いのある社会を実現することを目的に設立されたものです。

このように、鉢植え花木生産量全国2位、日本一のツツジ属(アザレアやシャクナゲ)の生産地である新潟の特色を生かした当園の調査、研究成果を活用して、県内外の花のイベントに参加することで、花き園芸の振興や緑化の普及のお手伝いをしています。(倉重祐二)